

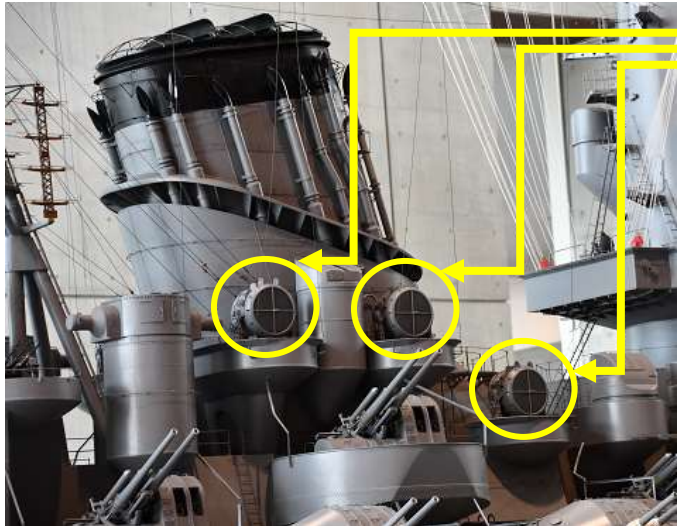


「大和」の探照灯は、艦船用で世界最大



探照灯

探照灯は、夜、暗い中で相手の船を見つけ出すための明かりです。



大和ミュージアムの10分の1「大和」には、煙突の両側に、左右3基ずつ、合計6基が付けられています。



九六式150センチ探照灯

中には、とても明るい光を出することができる光源と、その光をまっすぐ遠くまで届かせるために、直径150cmの反射鏡が取り付けられています。



光源

大正時代の中頃までは、光の色は橙色でしたが、「大和」では、電極に炭素棒を用いて明るく青白い光を出すアーク灯が使われました。

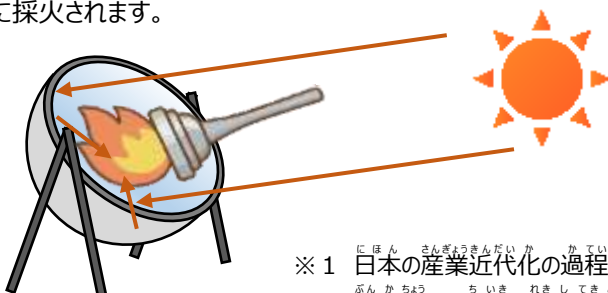
反射鏡

厚さ1cmのガラスの裏を銀メッキしたものです。ガラスは放物面（曲面）になっていて、光源から出る光を反射させます。戦後、太陽炉の実験の際、太陽の光を集める「集光器」として活用されました。

真っ暗な夜、約10km離れたところでも文字が読めると言われるほどの明るさでした。

探照灯の中に取り付けられていた反射鏡が大和ミュージアムに展示されています。この反射鏡は、近代化産業遺産※1、日本遺産※2に認定されています。

反射鏡を「集光器」として利用すると、反射鏡の焦点（光が集まる点）で火を付けることもできます。この仕組みを使って、オリンピックの聖火はトーチに採火されます。



※1 日本の産業近代化の過程を物語る存在として経済産業省が認定した建築物、機械、文書等
 ※2 文化庁が、地域の歴史的な魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーであると認定したものの。